

2026年

(令和8年)

7月20日[月]

第42号



沖縄大学

同窓会報

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail
dosokai@okinawa-u.ac.jp



2026 年新年会を開催

沖縄大学卒業式・修了式式典 同窓会長祝辞



沖縄大学同窓会
会長 棚原 勝也

卒業生の皆さん、ご卒業、誠にありがとうございます。また、本日、この晴れの日を迎えられたことに對し、これまで皆さんを支えてこられたご家族、教職員の皆さま、関係者の皆さまのご尽力に、同窓会を代表して、心より感謝とお祝いの言葉を贈らせていただきます。

本日、母校を巣立つ皆さんの四年間は、充実した四年間でしたでしょうか。苦しいことも、楽しいことも仲間や家族の支えで乗り越えた人も多くいると思います。

皆さんのそうした一つ一つの経験が、これから社会で試されます。これからが本当の意味で人生をかけた時間が始まると言っても過言ではありません。

ある哲学者の言葉に「その国の未来を知りたいければ、青年と語ればよい。青年に人びとのため、社会のため

に尽くそうという決意はあるか。向上しようという情熱はあるか。努力はあるか。それが、未来のすべてを雄弁に語る。」とあります。

沖縄の社会、この国の未来は、まさに皆さん一人ひとりの行動にかかっています。

一方で未来の話をすると、き、世界を見渡してみると、今年一月三日、アメリカがベネズエラを攻撃。一国の大統領を逮捕し連れ去るという出来事が起きました。

トランプ大統領は、「麻薬の流入を防ぐため、独裁者を排除して国民を救うため」と、行動の正義を語りましたが、その「正義」は本当に正しい正義なのでしょうか。アメリカは、ウクライナへのロシアの侵略を「国際法違反」と批判してきた立場にあったはずですが、もし「自らの正義」によって「力による現状変更」が許されるのであれば、力を持つ大国が、同じ論理で「正義」を主張したとき、世界の秩序はどうなるのでしょうか。

こうした国際紛争の平和的解決のため、また、過去の戦争を教訓にして、国連は存在しているはずですが、

その存在意義と役割も、今、問われています。

こうした行為によって「有事発生の敷居が下がる」と指摘した専門家もいます。これは決して遠い国の話ではなく、私たち一人ひとりが向き合うべき現実です。

私たちの世代は、皆さんの未来をつくるためにあります。しかし同時に皆さんも、これから、私たちと共に未来を考え、一緒に担っていく時代へと進んでいきます。

その皆さんに私から送るメッセージは「成長を続ける人であってほしい」というものです。

人生の勝利は、持続にあります。

一日の努力に勝利した人の十日後は、必ず違う十日後になります。十日、一カ月、半年、一年と、努力を持続し、勝利を重ねた先に、必ず別の景色が待っています。こうした行動を昔の人は「鍛錬」と名付けました。剣豪、宮本武蔵の「五輪書（ごりんしょ）」に「鍛錬」とは、「千日の稽古を鍛（たん）とし、万日の稽古を練（れん）とす」と記されています。千日は約三年、万日は約三十年です。努力を



祝辞を読み上げる大城明同窓会副会長

続ける人が成長の人となり、それは、未来を切り拓く力となります。

卒業生の皆さんの前途に希望と挑戦、そして持続する努力があることを心から願ひ、沖縄大学で学んだ仲間との絆をこれからも同窓会とともに広げ、それぞれの場所、自分らしく輝く人であることを心から願ひ、同窓会長としての挨拶とさせていただきます。

沖縄大学同窓会 新年会を開催

2026年1月17日、沖縄大学同窓会では、那覇市内において18時より「新年会」を開催しました。

会場には大学側から、同窓生でもある喜納憲利理事長と山代寛学長にご出席いただいたほか、後援会から同窓生の仲里武思会長をはじめ、多くの皆さまにご参加いただきました。

また、同窓会からは先輩方や顧問の皆さまに加え、関西支部より神田智博副支部長、赤松雅幸監事が駆けつけるなど、約60人が一堂に会しました。

新年会に先立ち、午前中にはスポーツ実行委員会主催による「パークゴルフ大会」も開催され、笑顔あふれる表彰式が宴席に華を添えました。

久しぶりの新年会開催ということもあり、懐かしい先輩方と元気な姿で再会することができ、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

新年会では、上田真弓副会長の司会進行のもと、大城明副会長が開会の挨拶を行い、続いて山代学長から「同窓会との連携をさらに

強化していきたい」との力強い言葉をいただきました。

新しい年を迎え、新たな希望と決意を胸に、一歩前進する2026年としてまいりましょう！
本年もどうぞよろしくお願いたします。



沖大同窓会・大学教職員懇親会を開催 大学教職員との交流を深める

4月28日、沖大同窓会と大学教職員との懇親会を開催しました。大城貴之学生部長を中心に多くの教職員の皆さまにお声がけをいただき、約30人が集う大変盛況な会となりました。

大学職員の中にも多くの同窓生がおり、中には今年3月に卒業したばかりの若い職員も参加されました。懇親会には、最年長60歳、最年少22歳と幅広い世代が集い、それぞれの自己紹介や近況報告に笑顔と笑い声があふれる、和やかなひとときとなりました。

懇親会では、今年度の新入生が定員を大きく上回り、多くの学生が沖縄大学を志望して入学したことも報告されました。中には、「沖縄大学のほうが自らの目標を確実に実現できる」と考え、他大学への進学を見送り入学を決めた学生もいたとのこと。日頃から教職員の皆さまが入試対策や就職支援に真摯に取り組まれているからこそ、大学の発展が支えられていることを、あらためて実感する機会となりました。

今回の大学教職員との交流会は、情報交換を深めることはもちろん、現役学生への支援体制をさらに充実させること、そして卒業後の同窓会活動への理解を広げることでも大きな目的の一つです。卒業生同士が同窓会を通じて幅広いネットワークを築き、困ったときには互いに支え合える存在にすることを、多くの先輩たちにも知ってもらいたいと考えています。同窓の皆さまにおかれましても、この趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本の教育者である新渡戸稲造は、「教育の最大の目的」の中で、「時の要求とともに推移し、活社会に活動する人格を養うことを教育の最大目的とせねばならぬ」と述べています。教育とは、単に知識を伝達するだけでなく、時代の変化に適応し、社会の中で主体的に活躍できる人格を育むことに本質があるという教えです。

沖縄大学の卒業生が、それぞれの社会で「人格の力」

をもって活躍されていることを大変誇りに思います。そして、そのような人材を育てるためには、学生と日々向き合う教職員一人ひとりの熱意と人間力が欠かせません。懇親会では、そうした感謝と期待の思いを込めて、同窓会長より教職員の皆さまへ激励の言葉がありました。

今後も若い世代の教職員や卒業生と力を合わせ、次代の同窓会を担う青年たちの活躍を後押しできるよう、同窓会としても取り組んでまいります。同窓各位におかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



関東支部長 仲宗根 政則

関東支部は今年で設立24年目を迎えます。昨年度の開催行事は、5月の支部総会及び懇親会と、10月には初の取り組みとして沖国大交友会(同窓会)東京支部との合同懇親会を約40名の参加で開催しました。

関東支部は他の支部に先駆けて毎年新しい取り組みにチャレンジしており、活動も更に盛り上がりつつあります。今年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

2026年度活動計画

1. 支部行事の企画内容の充実(新しい企画へのチャレンジ)
2. 支部行事の開催を通じて、参加メンバーの懇親を深めると共に新規参加メンバーの増員
3. 同窓会本部や他支部と連携して、関東エリア在住の大学OB・OGへ関東支部の認知度向上
4. 2026年度関東支部総会&懇親会(6月21日開催予定)
5. 沖国大交流会(東京支部との合同懇親会、10月予定)
6. 交流会及び懇親会(新年会)
7. 支部役員会(必要に応じて)

役員

支部長 仲宗根 政則
副支部長 高山 智宜
事務局長 仲波 昌吾
監査 中澤 麻里絵
顧問 新城 政孝

関西支部長 清村 斉

関西支部では、活動の展開と会員相互の情報共有のため、副支部長の神田を中心に、他の支部への活動にも参加をさせていただいています。また昨年から支部役員会を開催し、支部内外のつながりを一層深めることができました。

関西支部は、発足4年目を迎えました。これもひとえに皆様のご理解とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。本年も各支部と緊密に連携を図りながら、より有意義な活動の推進に取り組んでまいります。

役員

支部長 清村 斉
副支部長 神田 智博
事務局長 橋口 風伍
監事 赤松 雅幸



関西支部のみなさん

九州支部長 小倉 秀昭

九州支部は今年3月22日で設立して丁度1年、そして2年目へ向けて動いております。

去る2月28日土曜日に遅ればせながら新年会を開催し、福岡県在住の大学院卒のOBも初参加、また関西支部から神田副支部長、同窓会本部から大城副会長、奥間監事もご参加いただき懐かしい話題も含め様々な意見交換ができました。

また第1回目の定期総会を福岡市にて5月16日に実施し新年度の具体的活動の検討、九州地区在住で名簿掲載50余名の卒業生への九州支部認知度向上方法などについて話し合いました。

役員

支部長 小倉 秀昭
副支部長 市丸 典史
副支部長 大箭 泰士
事務局長 上江田 忠
監事 野口 直樹



九州支部のみなさん

久米島支部長 幸地 伸也

久米島支部は昨年度より新体制となり、支部活動への参加者増や久米島高校との情報交換や連携強化を支部目標に掲げ、支部運営に努めております。

活動報告

- 5月 役員会、定期総会懇親会
- 8月 大学保護者懇親会、
- 12月 役員会
- 1月 新年会、パークゴルフ大会

役員

支部長 幸地 伸也
副支部長 吉永 博之
副支部長 津波 瞬
事務局長 浜元 敏明
会計 金元 圭汰
監査役 大城 学



久米島支部のみなさん

宮古支部長 下地 信広

宮古支部では重点目標を「同窓生のネットワークを活用し会員の拡充に努める」として活動しております。

主な活動の紹介

- 1 グランドゴルフを楽しんだ後、6月頃に定期総会を開催。役員会には必要に応じ随時開催。
- 2 沖縄大学同窓会定期総会参加
- 3 沖縄大学保護者懇談会に参加し、学長、教授、後援会の方々と交流。
- 4 冠奨学金の依頼
- 5 沖縄大学入試推薦枠に依頼
- 6 忘年会、新年会の開催
- 7 卒業式、入学式への参加
- 8 沖大関連行事への協力等。

※宮古在住の同窓生の皆様のご入会、ご参加をお待ちしています。

役員

支部長 下地 信広
副支部長 下地 尚登
副支部長 藤本 明一
監事 喜友 名朝則
事務局 儀間 博



下地信広支部長

八重山支部長 鳩間 真英

八重山支部は2000年に結成され、現在活動が続いているみなさんや役員は2004年頃からのメンバーがほとんどで平均年齢も80歳を超えています。気配りで乗り切りたいと思っています。

一昨年度結成された青年部との連携を深め、活動を活性化していきたいと思っています。支部発足以来、連綿と活動の中心柱としているグランド・ゴルフで親睦を深めつつ、青年部は独自の計画での活動を進めております。

本年度の活動予定

5月 第1回グランド・ゴルフ大会、2026年度定期総会

6月 沖大同窓会定期総会参加
9月 保護者懇談会参加
(青年部対応)

3月までに計4回のグランド・ゴルフ大会を実施予定



八重山支部のみなさん

ヤンバル支部長 稲嶺 諭

ヤンバル支部は、その発展と継続を通して同窓生の親睦を深め、また現役学生にも良い刺激を与えられるような支部を目指して活動しています。皆様の身近にいらっしゃる同窓生にもお声掛けいただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

ヤンバル支部では2025年11月18日、忘年会を開催しました。2026年5月23日に支部総会の開催、年末には忘年会の開催予定です。ぜひご参加ください。



ヤンバル支部のみなさん

国家資格合格者を表彰

3月2日(月)沖縄大学本館において2025年度の国家試験の合格者へ、その健闘を称え賞状と祝金を送りました。

今回は「宅地建物取引士」の4人と「行政書士」の一人の合計5人の現役学生がいりました。内訳は2年生が2人、3年生が1人、4年生が2人です。

表彰式には宅地建物取引士に合格した眞翼さん、仲村康太さん、比嘉陸斗さん、行政書士に合格した比嘉悠乃さんの4人が出席。それぞれ不動産や弁護士など、卒業後に明確な目標を定め、日頃の勉強に加えて集中して徹底的に学んだことを報告。

いずれも未来に視点を据えたキラキラした表情で夢を語ってくれました。同窓会では、こうした現役学生の支援を主な活動として今年も卒業した同窓との絆を深めてまいります。



同窓会学生支援

陸上部
日本学生陸上競技
個人選手権

2026年4月13日、同窓会は日本学生陸上競技個人選手権大会へ出場する沖縄大学陸上競技部に派遣費を支援しました。女子100mの標準記録は12秒。突破した上地愛花選手は神奈川へ派遣され、全国からエントリーした71名にて100m学生女子日本一を競います。

硬式野球部
南部九州大学
野球選手権

沖縄大学硬式野球部は、大学野球選手権沖縄地区予選を制し、南部九州大学野球選手権大会出場を決めました。同窓会は2026年5月12日、同窓会評議委員会場で硬式野球部に派遣費を支援しました。野球部は熊本市リブワーク藤崎台球場にて決勝リーグに挑みます。



青年部会 観月会

安謝新都心自治会を会場に2025年11月29日、同窓会青年部会の主催する観月会が開催されました。毎年、学業やスポーツに活躍する現役学生を招待して春または秋に開催されています。

大学祭実行委員や海外研修参加者ほか、水球部(全国大会出場)、硬式野球部(全九州大会出場)のメンバーを招待。今年度から青年部会を引き継いだ比嘉康太郎会長は、学生達の活躍を応援しBBQを振舞いました。参加者は30名を超え、ひしめき合う会場は盛り上がりを見せました。



参加した現役学生のみなさん

硬式野球部OB部会

2024年に誕生した「野球部OB部会」は2月28日、総会並びに懇親会を開催しました。会には現役世代も含め20名以上が参加する盛況でした。部会には現島尻消防組合消防本部消防指令の仲村常司部会長や、元野球部監督の大城貴之学生部長などを中心に、総勢200名程の大所帯を誇ります。同窓会の部会の中では最もネットワークの広い野球部OB部会の今後の活動にも大いに期待をしてください。



硬式野球部OB部会のみなさん

奨学生の紹介

沖縄大学大学院現代沖縄研究科
地域経営専攻 仲本花

私は現在、沖縄大学大学院にて、『沖縄県における宿泊業の若年者早期離職問題ー若年者の早期離職に対する考え方の変化と在り方に焦点を合わせてー』というテーマについて研究しております。

講義やゼミでは、学部より専門性の高い内容を学び、他学生や教授と意見を交わす中で、自分だけでは気づかなかった視点に気づいたり、新たな学びを得ることができたり、日々多くの刺激を受けています。

特に、中間発表会などの成果発表の場で自分の研究を他者に伝える難しさを実感すると同時に、フィードバックを通して、新たな視点や考え方に触れ、自分の思考が大きく広がる瞬間に、研究のやりがいを感じています。議論や発表を通して、自分一人では辿り着けなかった視点に出会えることが大学院で学ぶ醍醐味だと感じています。

今後、研究を深めながら、自分の中になかった視点や価値観に出会う姿勢を大切に、修士論文の執筆に取り組みたいと考えています。

仲本氏 奨学生表彰にて



沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科
舞台芸術専攻 仲間功也

県立芸大大学院は、他の大学院同様、修士論文を手がけるとともに、実技分野における「修士演奏」も含め研究活動を行います。大学院一年目は、本学特有の設置科目「アートマネジメント演習」を受講し、学生自身が公演の企画制作を手掛ける実践事業に取り組みました。この事業は、私の出身地である金武町に焦点をあて、地域が抱える諸問題を抽出し、その課題解決を目指す公演内容をテーマに企画、実践を行いました。

金武町には、町木のクバにまつわる生活文化や伝統の獅子舞、移民の歴史など様々な文化があります。これら固有の財産を、地元の実演家や子どもたち、さらに県立芸大の学生や卒業生など総勢100名の出演者が、世代を超えて共演しました。金武町ならではの地域性を芸術を通して紹介した公演となり、町民の皆様にも好評のお言葉を頂き、ふるさとの歴史や文化を未来へ継承する機会となりました。



自主企画「金武町ふるさと琉球芸能公演」について、
金武町長へ表敬訪問
左から3番目が仲間一金武町長、4番目が本人

本年度は、来年1月に発表を行う「修士演奏会」に向け、さらに研究活動に力を入れています。

女性部会
花見会

祝金贈呈の様子

同窓会女性部会が主催する花見会が3月21日、安謝新都心自治会を会場に開催されました。同会はスポーツや学業に活躍顕著な現役学生を招待して催され、全国大会に出場した軟式野球部のメンバーや、日本語教員の資格合格者が参加しました。

進路の決まった学生が多数参加し、学生生活の思い出や進路の展望など、和やかで明るい歓談となりました。同日は日本語教員合格者への祝金贈呈も行われました。



軟式野球部が自己紹介



女性部会のみなさん



2026年2月14日、沖縄大学本館において、同窓会女性部会主催による「フラワーアレンジメント体験教室」が開催された。

当日は、講師に我喜屋香氏を迎え、7名の部会員が参加し、ラウンドブーケの制作に取り組んだ。ラウンドブーケとは、丸みを帯びた美しいシルエットが特徴のブーケであり、花嫁やブ

ライズメイドが手にするブーケをイメージしたものである。

今回は、「キュート」または「ドラマティック」をテーマに、それぞれが思い思いのデザインを制作した。

参加者全員が同じ種類の花材を使用したものの、完成した作品にはそれぞれの個性が表れ、色彩や配置に工夫を凝らした魅力あふれるアレンジメントとなった。

体験教室終了後は、完成した作品を囲んで懇親会が行われた。会席弁当に加え、上田真弓部会長が丹精込めて漬けたぬか漬けも振る舞われ、和やかな雰囲気の中で交流を深めた。

参加者は学生時代の思い出や近況報告に花を咲かせ、終始笑顔あふれる有意義なひとときを過ごした。

女性部会
フラワーアレンジメント体験教室を開催

2025年度
同窓会事業活動報告

1. 役員会開催(4回)
2. 評議員会開催(2回)
3. 定期総会開催
4. スポーツ大会開催
5. 広報委員会(5回)
6. 在学生への支援
- ① 社会福祉士・精神保健福祉士合格者へ祝金贈呈
- ② 管理栄養士国家試験合格者へ祝金贈呈
- ③ 宅地建物取引士資格試験合格者表彰
- ④ 日本語教員試験合格者表彰
- ④ 同窓生家族(一親等)の入学金一部補助
- ⑤ 卒業証書ホルダー費用補助
- ⑥ 大学祭運営補助
- ⑦ 卒業生へ記念菓子贈呈
- ⑧ 青年部会主催学生サークル招待観月会
- ⑨ 女性部会主催学生サークル招待花見会

2026年度一般会計予算書
2026年4月1日～2027年3月31日

収入の部 (単位: 円)

項 目	2026年度予算A	2025年度予算B	増△減 A-B
1. 会費	10,400,000	9,760,000	640,000
2. 事業収入	1,000	1,000	0
3. 雑収入	2,000	2,000	0
当期収入合計	(10,403,000)	(9,763,000)	(640,000)
前年度繰越金	7,025,801	8,081,354	△1,055,553
収入合計	17,428,801	17,844,354	△415,553

支出の部 (単位: 円)

項 目	2026年度予算A	2025年度予算B	増△減 A-B
1. 事務費	3,336,000	3,336,000	0
2. 会議費	1,300,000	1,300,000	0
3. 事業費	9,810,000	9,460,000	350,000
A 卒業生対象事業	(4,400,000)	(4,150,000)	(250,000)
B 在学生への支援事業	(4,410,000)	(4,310,000)	(100,000)
C その他の事業	(1,000,000)	(1,000,000)	(0)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	1,000,000	0	1,000,000
6. 雑費	100,000	100,000	0
7. 予備費	1,142,801	2,908,354	△1,765,553
支出合計	17,428,801	17,844,354	△415,553

2025年度一般会計決算書
2025年4月1日～2026年3月31日

収入の部 (単位: 円)

項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 会費	9,760,000	10,740,000	980,000
2. 事業収入	1,000	35,000	34,000
3. 雑収入	2,000	7,380	5,380
当期収入合計	(9,763,000)	(10,782,380)	(1,019,380)
前年度繰越金	8,081,354	8,081,354	0
収入合計	17,844,354	18,863,734	1,019,380

支出の部 (単位: 円)

項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 事務費	3,336,000	2,442,781	△893,219
2. 会議費	1,300,000	1,029,935	△270,065
3. 事業費	9,560,000	6,625,217	△2,934,783
A 卒業生対象事業	(4,250,000)	(2,463,769)	(△1,786,231)
B 在学生への支援事業	(4,310,000)	(3,769,600)	(△540,400)
C その他の事業	(1,000,000)	(391,848)	(△608,152)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	0	1,000,000	1,000,000
6. 雑費	100,000	0	△100,000
7. 予備費	2,808,354	0	△2,808,354
当期支出合計	17,844,354	11,837,933	△6,006,421
次年度繰越金	0	7,025,801	

2025年度特別会計決算書
沖縄大学同窓会創立65周年記念事業
2025年4月1日～2026年3月31日

収入の部 (単位: 円)

項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 前年度繰越金	1,036,432	1,036,432	0
2. 特別積立金	0	1,000,000	1,000,000
3. 事業収入	0	0	0
4. 雑収入	0	1,926	1,926
収入の合計	1,036,432	2,038,358	1,001,926

支出の部 (単位: 円)

項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 行事費	0	0	0
2. 次年度繰越金	0	2,038,358	2,038,358
支出の合計	0	2,038,358	2,038,358



1. 社会福祉部会設立
2. スポーツ大会の開催
3. 同窓会奨学金の交付
4. 「同窓会報」発行
5. 各支部(久米島・宮古・八重山・関東・関西・ヤンバル・九州)活動支援
6. 部会への活動支援
7. 在学生への支援事業
- ① 同窓生家族(一親等)への入学金一部補助
- ② 資格取得支援補助
- ③ 就職活動支援
- ④ サークル県外派遣費補助
- ⑤ 大学祭運営補助
- ⑥ 卒業証書ホルダー費用補助
- ⑦ その他支援活動補助

2026年度
事業計画

人物シリーズ 活躍する 同窓生 ③1

この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げることと、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。

一般財団法人沖縄美ら島財団
水族館管理センター
水族館業務課 課長

高山 朝邦さん

1990年卒業
法経学部 経済学科



◆沖縄大学入学のきっかけ

私はやっぱり（本部町）の出身で、「都会（那覇）にでなかった」こと、当時の大学の理念「地域に根差し、

地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」が何となく魅力的に感じたこと、「派遣留学生制度があり同制度を活用して県外の大学でも学びたい」という思いから入学を決めました。

◆学生時代は

1年次は、大嶺ゼミ（生物學）に所属し、夏休みに伊是名島の大野山のフィールド調査とサバイバルキャンプを行いました。調査結果は先生の研究に貢献したと思います。

2年次は、山門ゼミに所属しました。ゼミでは、地域企業の研究や、那覇空港近くにある沖縄自由貿易区（フリーゾーン）について調査を実施しました。また、「モグリ聴講のすすめ」を実践し、法学部の佐久川学長の講義や宇井先生の公害論も積極的に聴講していました。

現在でも1・2年次のゼミのメンバーは付き合いがあり、私の財産となっています。

3年次は、派遣留学生として秋田経法大に国内留学しました。この年、沖大と秋田経法大が派遣協定を締結したものの希望者がいない

状況でした。それで、学生部の奥間さんから連日のように説得され、友人と二人で行くことになりました。この件が、きっかけで奥間さんとは現在も交流が続いています。

秋田経法大では、沖縄とは違う体験ができたと思いい山岳部に入学しました。遠征（合宿）が出席扱いになること、遠征費も部費から出るため、授業そっちのけで遠征で山に登っていました。特に、北アルプス縦走（槍ヶ岳・穂高連峰）が一番の思い出として残っています。



山岳部の仲間
(前段右から2番目)

北アルプスでは最初に槍ヶ岳（標高3,180m）の頂上を制覇しました。次に制覇したのが奥穂岳（標高3,190m）です。早朝に出発し、ご来光を拝み、尾根を流れる雲海を見ながら、縦走路を歩き続け、み

んなで奥穂岳を制覇しました。槍ヶ岳から奥穂高を経て上高地に無事に下山できた時は充実感一杯でした。



写真中央

このように、秋田での1年間は、山岳部で、良き仲間・恩師と出会い、充実した留学生活をおくれました。

入部して本当に良かったと思います。部員は東北各県の出身者がおり、今でも交流が続いています。彼らとの出会い、思い出は私の宝です。

◆現在の職場

1990年卒業後、当時の（財）海洋博覧会記念公園管理財団に入社しました。現在の（一財）沖縄美ら島財団です。（2012年10月に改組）。国営公園（海洋博公園・沖縄美ら海水族館・首里城公園）の管理運営、亜熱帯性動植物や首里城等に関する調査研究、普

及啓発事業などを行っています。

入社のかっけは、海洋博公園は地元で親しみがあったこと、関係者から「やっぱりでも全国レベル・世界レベルの仕事ができる」という口説き文句で入社を決断しました。

入社後は、海洋博公園の花火大会やトリムマラソン大会等のイベント企画、首里城公園では物販・飲食施設の運営、本部では予算管理や人事など幅広く担当してきました。

現在は、沖縄美ら海水族館の広報宣伝、誘客営業活動及び利用促進企画など運営部門の責任者として従事しています。

水族館の社会的役割は、「種の保存、教育・環境教育、調査・研究、レクリエーション」を通じて、生物多様性と地域社会への貢献を果たすことです。当館は世界トップレベルの調査研究、教育・研修、情報発信に加え、観光施設（レクリエーション）として、沖縄観光の人氣施設として北部振興に寄与する地域連携施策を行っています。このような施設で働くことはこの上ない喜びと、一つ一つの仕事に大

きなやりがいを感じます。

◆在校生におくるメッセージ

沖大には派遣留学制度があります。同制度を積極的に活用してほしいと思います。沖縄を離れて、県外で学ぶことは貴重な体験です。意欲的・積極的な学生を作りだし、社会に貢献する豊かな識見を広めてください。大学での学びや経験はその後の人生で必ず役に立つと思います。どんな経験も知識も無駄になることはありません。しっかり学び、おいに遊び、様々なことに挑戦し、社会に貢献できる大人になってください。また、大学の4年間は長くもあり短くもあります。人生において自由な時間が一番あるときです。悔いのないようにやりたい事に挑戦してってください。学生生活を思う存分楽しんでください。



北穂高岳にて